株主通信

2023年度 中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日

千代田化工建設株式会社
証券コード6366

CHIYODA CORPORATION

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

ここに、当社グループの現在の取り組みについてご報告申しあげます。

➢ 再生計画の成果
2019年以降、中期経営計画「再生計画～再生と未来に向けたビジョン～」に基づき、再生と成長の基盤作りとして、リスク管理体制高度化、プロジェクト遂行力強化に取り組んできました。その結果、2022年度の連結純利益は150億円を超え、過去10年間における最高益となるなど、安定的な収益基盤は拡大しており、当社は確実に目指す姿に向けて前進しています。

➢ 事業ポートフォリオ革新の加速
「2030年のありたい姿」として、ガス&オイル分野を主体とした既存事業と脱炭素やライフサイエンス分野など新規事業の利益貢献比率を50：50にすることを掲げ、事業ポートフォリオの革新に取り組んできました。その結果、2020年度には10%程度だった新規事業の利益貢献比率は、2022年度には15%となり、少しずつではありますが着実に増えています。今後も、事業ポートフォリオ革新を加速させ、収益構造の革新を目指していきます。

➢ 次なる革新と成長の指針となる「パーパス（存在意義）」の策定
2023年8月にパーパス「社会の“かなえたい”を共創（エンジニアリング）する」（Enriching Society through Engineering Value）を策定しました。当社グループが目指す方向性を全社員および全てのステークホルダーと共有することで、成長に向けた大きな原動力を生み出していきます。

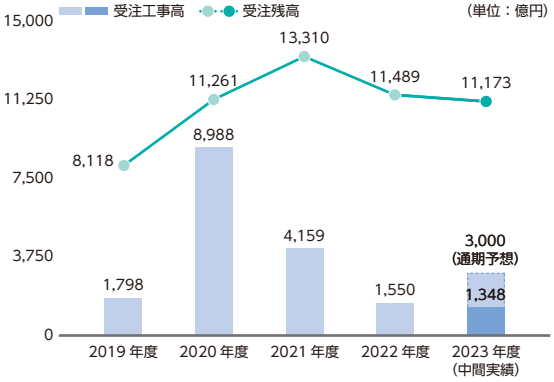
当社グループは、パーパスを指針として、脱炭素社会の実現に貢献することで、社会的価値を創出し持続的な成長を果たします。

今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

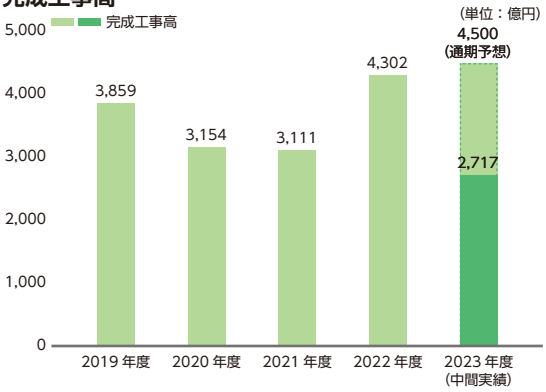
千代田化工建設株式会社
代表取締役会長兼社長
榊田雅和

財務ハイライト

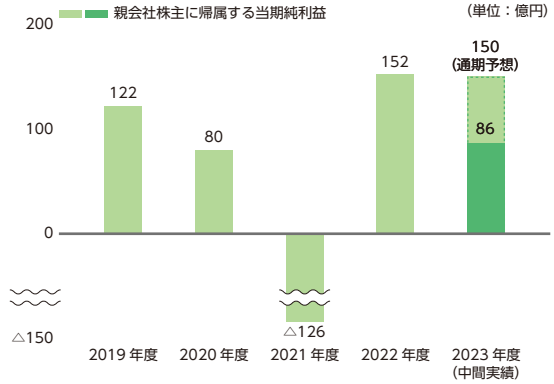
受注工事高／受注残高



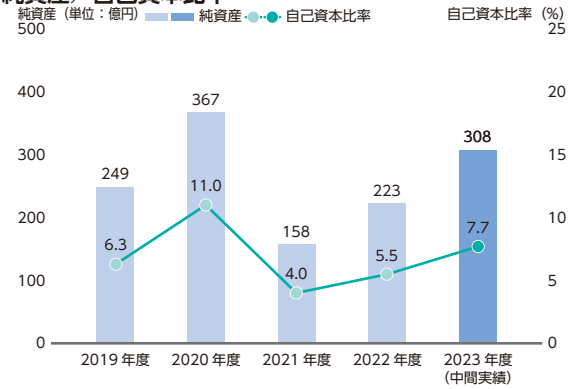
完成工事高



親会社株主に帰属する当期純利益



純資産／自己資本比率



(本項目に記載の金額は、表示単位未満を四捨五入して表示しています。)

決算情報のお知らせ

スマートフォン・タブレット端末からも
ご覧いただけます。

URL：https://www.chiyodacorp.com/jp/ir/

トピックス

■ ENEOS（株）向け 大型蓄電池設備 設置工事2件を受注、建設工事を遂行中

➢ 再生可能エネルギーの導入拡大に向けて、蓄電池の活用は、電力需給バランスの安定化・出力変動といった課題解決において重要な役割を果たしています。

➢ 世界最大級の蓄電池設備を建設した実績*1や高いプロジェクト遂行力等を活かし、本件の遂行を通じ脱炭素社会の実現に貢献していきます。

所在地	北海道室蘭市 ENEOS（株）室蘭事業所内	千葉県市原市 大阪国際石油精製（株）*2 千葉製油所内
蓄電池出力／容量	50 MW ／ 88 MWh	100 MW ／ 202 MWh
事業開始時期	2023 年度（予定）	2025 年度（予定）
蓄電所外観	【建設状況】 	【完成イメージ】

*1 2023年4月14日当社ニュース「北海道北部風力送電株式会社向け北豊富変電所蓄電池システム建設工事を完工」参照。
*2 ENEOS（株）のグループ会社

■（株）クレハより、先端素材 生産設備のEPC業務を受注

➢（株）クレハ過去最大投資規模のフッ化ビニリデン樹脂（PVDF*）生産設備モノマー工程のEPC業務を受注しました。

➢ 本件の遂行を通じ、脱炭素社会の実現に向けて、自動車の電動化や再生可能エネルギー普及の鍵となる蓄電池の国内生産・安定供給に貢献していきます。

PVDF「クレハKFポリマー」
出典・(株)クレハHP

◆ PVDFは、蓄電池（リチウムイオン二次電池）の基幹素材です。

◆ 各国の環境保護意識の高まりなどにより、車載用リチウムイオン二次電池向けに需要の拡大が見込まれます。

* Polyvinylidene fluoride の略。

当社最新受注案件について、
詳しくは、当社HP「ニュース」をご覧ください。

■ 当社CMの放映

2023年10月1日から2ヶ月間、以下の番組内にて当社CMが放映され、パーパスの体現に向けた当社グループの事業の全体像をご紹介しました。

当社HPよりご覧いただけます。

【番　組　名】日曜報道 THE PRIME
【放　送　局】フジテレビ
【放 送 日 時】毎週日曜日7：30～8：55
【放送エリア】関東枠（東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・栃木・群馬）
【放 映 期 間】2023年10月1日～11月26日（2ヶ月間）

■「エネルギーの脱炭素化、水素社会が実現する未来」対談掲載

2023年8月30日に開催されたシンポジウム『読売カーボンニュートラル・デイ』で、榊田会長兼社長が資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長井上博雄氏と「エネルギーの脱炭素化、水素社会が実現する未来」について対談しました。2023年9月21日付読売新聞の対談編集特集で掲載され、動画も公開されました。是非ご覧ください。

読売新聞オンライン Carbon Neutral Project 特設サイト

■「水素を常温・常圧で運ぶ独自技術で世界を変える」対談掲載

週刊新潮(2023年9月21日発売号)の企画<佐藤優の頂上対決>で、榊田会長兼社長が、「現代日本を代表する“知の巨人”」と評される作家・元外交官の佐藤優氏と対談しました。ロシア・ウクライナ情勢からLNG、水素などのエネルギー市場動向まで、幅広いテーマに及んだ約90分の対談の内容が、5ページにわたり掲載されました。

詳細はこちらをご覧ください。

共創する価値

当社グループが共創する社会的価値の具体的な取り組み事例をご紹介します。

❶ クリーンなエネルギーの安定供給

■ Cleaner LNGの推進

脱炭素へのトランジションエネルギーとして、LNGの重要性は増しています。今後のLNG案件の大きな開発コンセプトとして、CO_2排出量を削減するCleaner LNGのニーズが高まるとみられます。当社グループは、Cleaner LNGの開発を推進していきます。

➢ 世界最大級のCleaner LNGプラント建設

フランスのテクニップエナジーズ社と共同で遂行中のカタールガス向けNorth Field East LNG生産設備建設プロジェクト(NFE LNG)は、年産800万トンのLNG生産設備を4系列建設する世界最大級のプロジェクトです。

カタールNFE LNGでは、以下の取り組みにより、同規模の他LNGプラントと比較し、操業時のCO_2排出量を25%削減します。

・大規模CCS設備の導入により、供給ガスからCO_2抽出・高圧圧縮し地下に貯留(20%の削減寄与)

・ガスタービンの排熱回収設備によるエネルギー効率の向上(5%の削減寄与)

また、温室効果ガスのNOx排出量抑制技術を適用しています。

As of March 2023, Courtesy of Qatargas

➢ 電動化技術導入によるCO_2排出量削減

2020年に米国で完工したフリーポートLNGプロジェクトでは、冷却装置をガスタービン駆動式から、電動モーター駆動式（E-Drive）に変更することで、プラントからのCO_2排出量を削減します。

■ 脱炭素社会に必要な銅資源の供給拡大

銅は他の金属に比べて抜群の導電性を持ち、EVや電線、蓄電池、モーター他各種電子機器に用いられ、今後さらなる需要拡大が予想されています。当社グループは、インドネシアで年間最大48万トンを生産する単一ラインで世界最大規模の銅製錬プラントを建設しています。

Courtesy of P.T. Freeport Indonesia

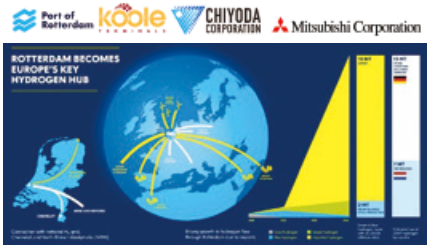
❷ 水素社会の早期実現

■ シンガポール水素サプライチェーン事業開発の概念設計を遂行中

シンガポール最大の再生可能エネルギー事業者の1社であるSembcorp Industries社、三菱商事㈱と、当社のSPERA水素™技術を利用して、クリーン水素をオーストラリアや中東からシンガポールに輸送する水素サプライチェーン事業化に向けた概念設計を遂行中です。エネルギー資源を輸入に依存する点で日本とシンガポールは同じ状況であり、シンガポールの水素導入は日本のモデルケースになり得ます。

■ 欧州での水素サプライチェーン事業展開

欧州では、水素輸入ハブ構想や水素ハイウェイ構想に参画し、具体的な検討を進めています。



オランダ・ロッテルダム港への商業規模水素輸入検討

スコットランドからロッテルダムへの「水素ハイウェイ」構想

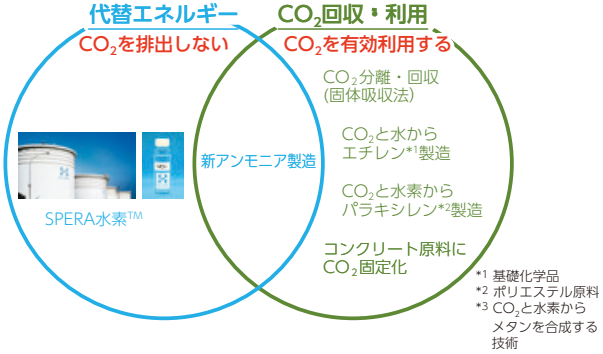
❸ カーボンニュートラルへの貢献

■ CO_2の代替エネルギー、CO_2の回収・利用の技術開発

CO_2を排出しないこと、CO_2を有効利用することの両面から脱炭素社会を実現する技術開発・実証に取り組んでおり、2030年以前の商業化を目指しています。

■ 世界最大級のCO_2メタネーション*3試験設備の建設

㈱INPEXがNEDOから採択された助成事業のもと、大阪ガス㈱と共同で実施している、ガスのカーボンニュートラル化に向けてCO_2メタネーションシステムの実用化を目指した技術開発事業の試験設備の建設を遂行中です。本試験設備の能力は400Nm^3-CO_2/hで現時点で世界最大級の規模となります。



❹ 健やかで心豊かな生活への貢献

■ ライフサイエンス分野での付加価値の高いソリューション・プロバイダー

ライフサイエンスは人々の生活の基本である、「食べる：食品」「生きる：医薬・医療」「暮らす：化学、環境」と密接に関わる技術分野です。当社グループはこの分野における1,000件を超える設計・建設の実績を活かして、顧客伴走型で、付加価値の高いソリューションを提供し続けます。

➢ 医薬品分野-医薬品エンジニアリングの深化

医薬品プラント建設における60年以上、620件超の実績を活かして、ワクチン原薬製造設備やバイオ医薬品原薬製造工場の建設などを遂行しています。今後、次世代医薬品やバイオインダストリーに展開していきます。

塩野義製薬㈱向けワクチン製造設備外観

➢ 石油化学で培った技術の応用

医薬品原薬・中間体分野では、従来のバッチ方式での生産から、新たに連続生産技術を導入することにより、開発期間の短縮、省人化、効率化、高度な品質保証が期待されています。当社グループは、シオノギファーマ㈱が主導する原薬・中間体の開発製造受託事業を行うPharmira㈱に出資参画し、石油化学分野で培った連続生産技術を医薬品分野に導入、実装に貢献していきます。

Pharmira㈱外観

会社の概要 (2023年9月30日現在)

商号／千代田化工建設株式会社
(Chiyoda Corporation)
設立／1948年1月20日
資本金／150億14百万円

取締役

代表取締役会長兼社長 CSO兼CWO	榊田雅和（さかきだ まさかず）
代表取締役専務執行役員 CFO兼CCO	出口篤（でぐち あつし）
取締役常務執行役員	小林直樹（こばやし なおき）
取締役	石川正男（いしかわ まさお）
取締役	太田光治（おおた こうじ）
社外取締役	松川良（まつかわ りょう）
社外取締役	救仁郷豊（くにごう ゆたか）
取締役(常勤監査等委員)	渡部修平（わたなべ しゅうへい）
社外取締役(監査等委員)	奈良橋美香（ならはし みか）
社外取締役(監査等委員)	伊藤尚志（いとう ひさし）

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
定時株主総会基準日	3月31日 そのほか必要がある場合には、取締役会の決議によりあらかじめ公告のうえ設定いたします。
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.chiyodacorp.com/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。
一単元の株式の数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所　スタンダード市場
証券コード	6366
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 電話 0120－232－711（通話料無料）

CHIYODA CORPORATION

千代田化工建設株式会社

〒220-8765
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー
電話：045-225-7777（代表）
https://www.chiyodacorp.com/

当社の取り組みについて詳しくは「CHIYODA REPORT 2023」をご覧ください。

■株式に関するお問い合わせ先

1．住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求等の各種お手続きについて
　(1)　証券会社等の口座に記録された株式
　　口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
　(2)　特別口座に記録された株式
　　三菱UFJ信託銀行株式会社（特別口座管理機関）にお問い合わせください。
2．未受領の配当金について
　三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

[三菱UFJ信託銀行株式会社のお問い合わせ先]
〒137-8081　新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
電話 0120－232－711（通話料無料）

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080

VEGETABLE OIL INK